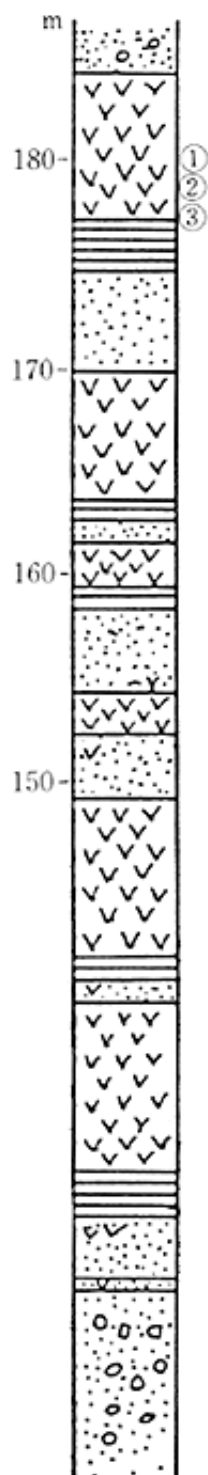


ブナ属 *Fagus stuxbergi* (Nathorst) Tanai

発見地点の須磨区名
谷町の柱状図



▲神戸層群からよく見つかるブナ属の葉の化石

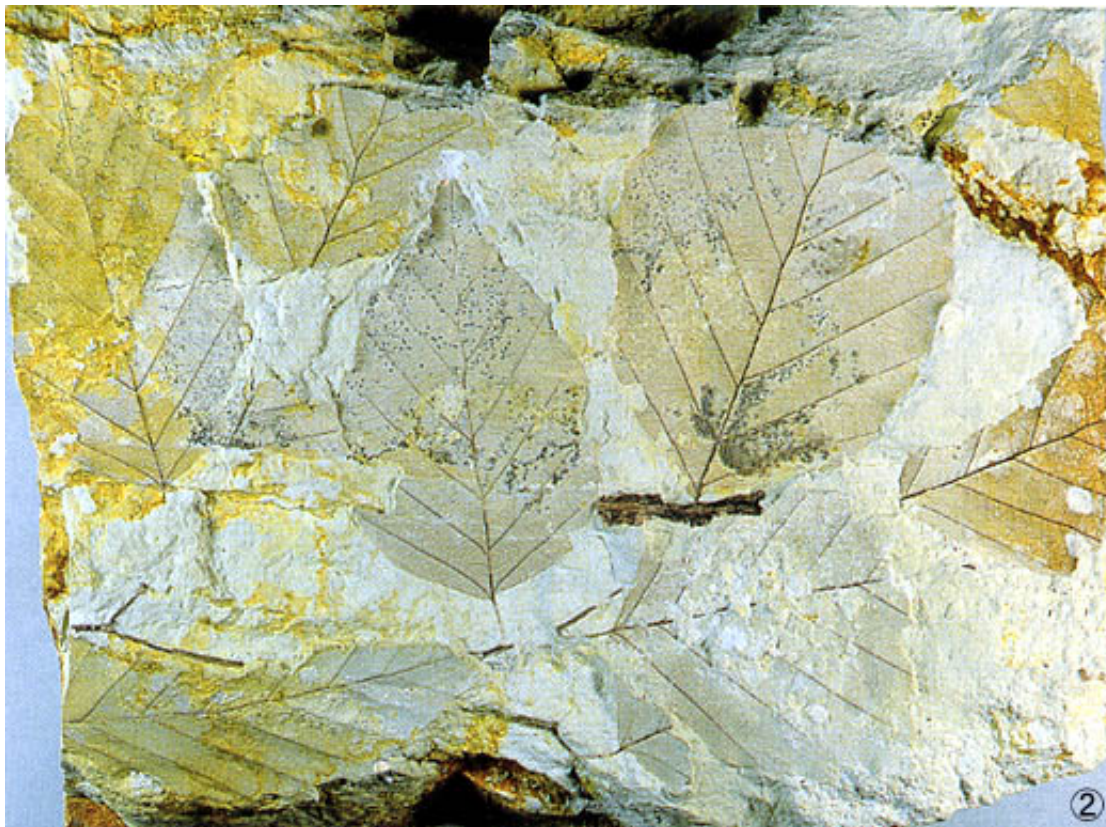
ブナ属

ブナの葉の化石の特徴は、大きく3つある。第1は鋭いのこぎり葉があることで、第2は、主脈の上半部が弱く、ジグザグ状にわずかに屈曲していることで、第3に、主脈から出ている側脈が規則正しく平行に走っていることである。

このほかにも、葉の形は卵形であり、基部は広いくさび形で、葉の先は鋭くとがるなどが特徴としてあげられる。葉の縁にきざまれている鋭いのこぎり葉は、現在の日本に生えているブナとイヌブナには見られない。この二種のブナののこぎり葉は波状葉（波のような形）である。

また、ブナ属はヨーロッパ、東アジア、北アメリカ東部に広く分布し、10種類ほど知られている。それらをグループ分けすると、ヨーロッパブナ・中国ブナ・アメリカブナの3つに大きく分けられる。

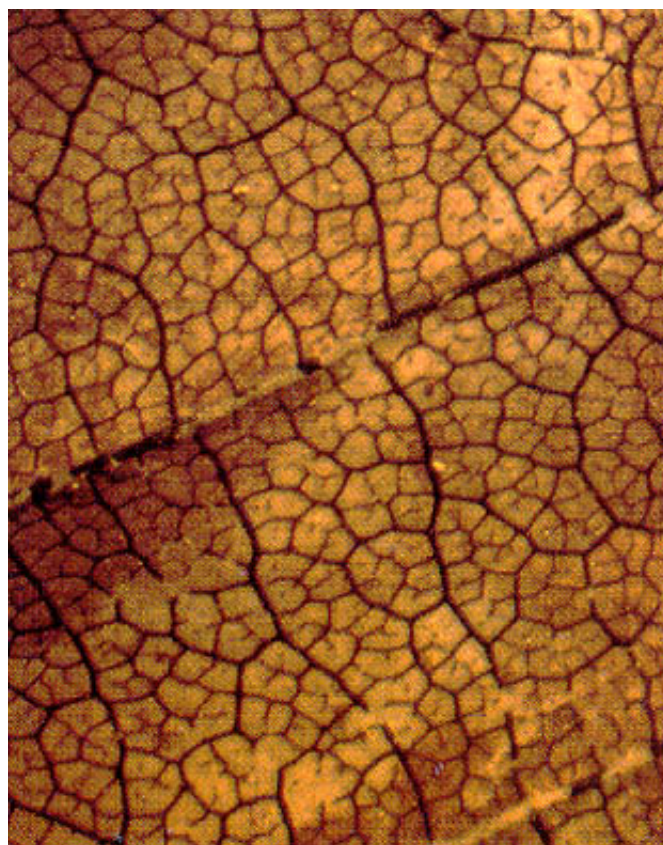
（ブナ科 ブナ属 *Fagus* L.）



▲主脈ジグザグに曲がっている。ブナの葉の密集した化石。



▲鋭いのこぎり葉



▲ブナ属の細脈を拡大したもの

